

取扱説明書

名称：ロータリ・アクチュエータ

CRB2BW10

CRB2BW15

CRB2BW20

CRB2BW30

- 取扱説明書は、よく読んで内容をよく理解した上で製品を取付け、ご使用ください。
- 特に安全に関する記述は、注意深くお読みください。
- この取扱説明書は、必要な時にすぐ取り出して使用できるように保管してください。

目

次

	ページ
1. 概 要	
1-1. 仕様	… 1～2
1-2. 実効トルク	… 3
1-3. 面取位置と揺動範囲	… 3
2. 内部構造と各部品名称	
シングルベーンタイプ	… 4
ダブルベーンタイプ	… 4
3. ロータリ・アクチュエータ使用の基本回路	
3-1. 回路構成	… 5
3-2. 推奨機器	… 5
4. 取 付	
4-1. 使用空気について	… 6
4-2. 配管について	… 6
4-3. 軸に加わる荷重制限	… 7
4-4. 軸継手の使用	… 7～8
4-5. 使用環境について	… 8
4-6. 取付けについて	… 8
5. 揺動時間の設定	
5-1. 慣性モーメント	… 9～10
5-2. 運動エネルギー	… 11
5-3. 外部ストッパ	… 12
6. 保守・点検	… 13～15
7. 故障と対策	… 16～17

1. 概要

この取扱説明書は、ベーンタイプロータリ・アクチュエータについて説明したものです。負荷の大きさ（慣性モーメント）、揺動時間、その他使用上の条件がありますので、あらかじめ製品の仕様をご確認の上、使用されますようお願い致します。

1-1. 仕様

シングルベーンタイプ

		CRB2BW10		CRB2BW15		CRB2BW20		CRB2BW30	
ベーン形式		シングルベーン							
揺動角度		90,180	270	90,180	270	90,180,270			
保証耐圧力 MP a		1.05						1.5	
使用流体温度 °C		5~60							
最高使用圧力 MP a		0.7						1.0	
最低使用圧力 MP a		0.2						0.15	
速度調整可能範囲 S/90°		0.03 ~0.3						0.04 ~0.3	
許容運動エネルギー J		0.00015		0.001		0.003		0.02	
				0.00025		0.0004		0.015	
軸荷重 N	ラジアル	15		15		25		30	
	スラスト	10		10		20		25	
軸受		ベアリング							
ポート	位置	ボディ側面及び軸方向							
ポート サイズ	ボディ側面	M5×0.8	M3×0.5	M5×0.8	M3×0.5	M5×0.8			
	軸方向	M3×0.5							
軸形式		両軸（両軸共に一面取）							
取付支持形式		基本形, フランジ形							

注1) 表中の上段は、ラバークッション使用（揺動端での使用）の場合、下段はラバークッションを使用しない場合のエネルギー値を示します。

注2) 上限を超えた遅い速度制御では、スティック現象を生じたり動作しなくなることがありますので、速度調整可能範囲内でご使用ください。

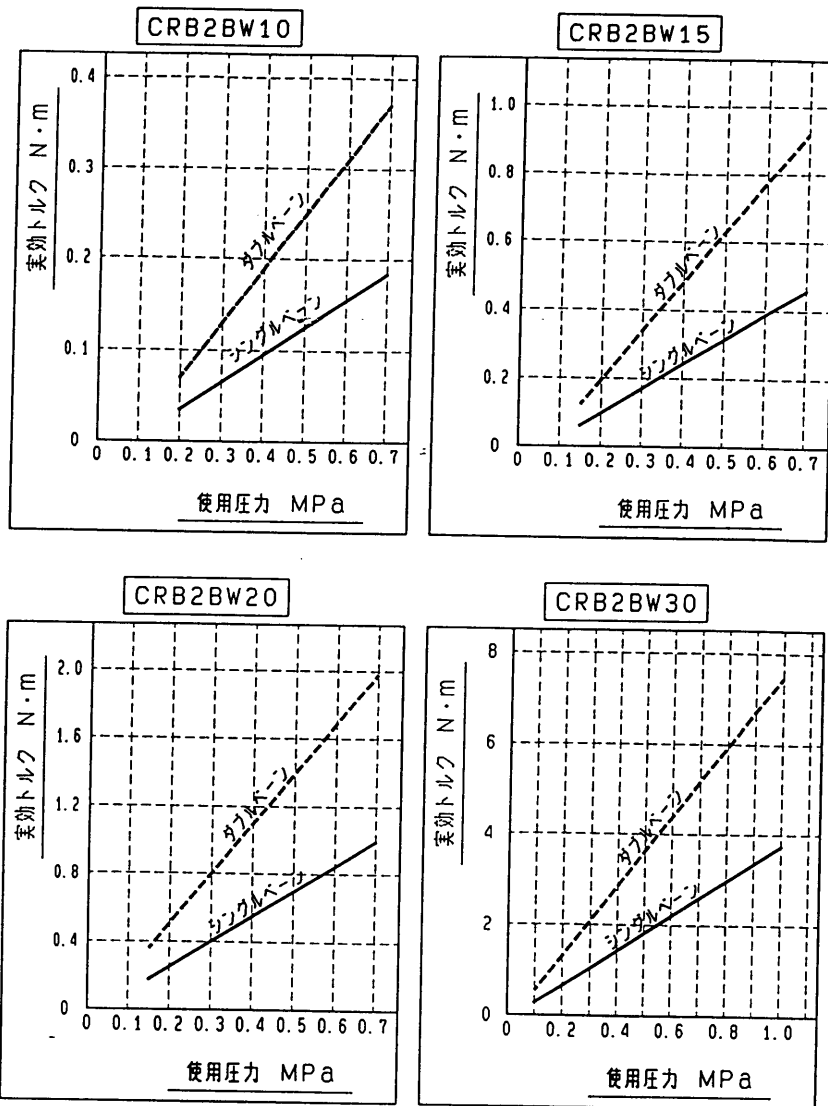
ダブルベーンタイプ

		CRB2BW10	CRB2BW15	CRB2BW20	CRB2BW30
ベーン形式		ダブルベーン			
揺動角度		90, 100			
保証耐圧力 MPa		1.05			1.5
使用流体温度 °C		5~60			
最高使用圧力 MPa		0.7			1.0
最低使用圧力 MPa		0.2			0.15
速度調整可能範囲 S/90°		0.03 ~0.3			0.04 ~0.3
許容運動エネルギー J		0.0003	0.0012	0.0033	0.02
			0.00027	0.00048	0.015
軸荷重 N	ラジアル	15	15	25	30
	スラスト	10	10	20	25
軸受		ベアリング			
ポート	位置	ボディ側面及び軸方向			
ポート サイズ	ボディ側面	M3×0.5		M5×0.8	
	軸方向				
軸形式		両軸（両軸共に一面取）			
取付支持形式		基本形, フランジ形			

注1) 表中の上段は、ラバークッション使用（揺動端での使用）の場合、下段はラバークッションを使用しない場合のエネルギー値を示します。

注2) 上限を超えた遅い速度制御では、スティック現象を生じたり動作しなくなることがありますので、速度調整可能範囲内でご使用ください。

1-2. 実効トルク

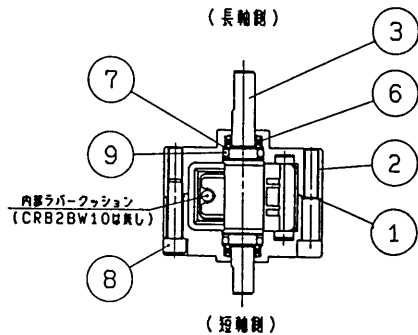
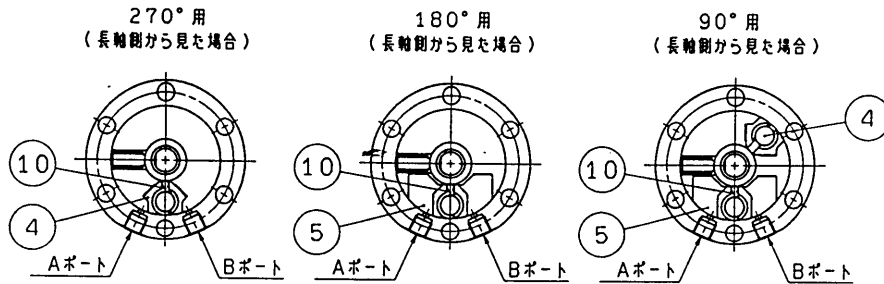


1-3. 面取位置と揺動範囲 (長軸から見た場合)

CRB2シリーズ / サイズ: 10, 15, 20, 30 (サイズ10のみ90°, 180°, 270°の揺動角度公差が、0, +5°になります。)			
シングルベーンタイプ			ダブルベーンタイプ
90°	180°	270°	90°, 100°

2. 内部構造と各部品名称

シングルベーンタイプ



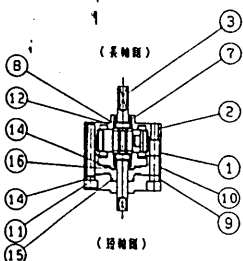
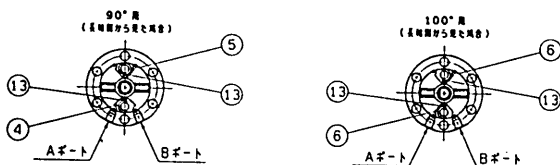
パーツリスト

番号	部品名	材質	備考
1	ボディ(A)	アルミニウム合金	白色
2	ボディ(B)	アルミニウム合金	白色
3	ベーンシャフト	ステンレス鋼	
4	ストップ	樹脂	270°用
5	ストップ	樹脂	180°用
6	ベアリング	高炭素クロム軸受鋼	
7	バックアップリング	ステンレス	
8	六角穴付ボルト	ステンレス	特殊ボルト
9	"O" リング	NBR	
10	ストップパッキン	NBR	

* CRB2BW30の場合には販売調に異なります。

ダブルベーンタイプ

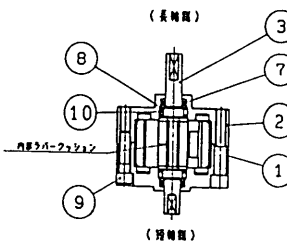
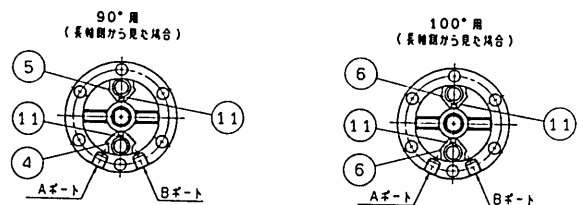
CRB2BW10-※D



パーツリスト

番号	部品名	材質	備考
1	ボディ(A)	アルミニウム合金	白色
2	ボディ(B)	アルミニウム合金	白色
3	ベーンシャフト	樹脂	
4	ストップ	ステンレス	
5	ストップ	樹脂	
6	ストップ	ステンレス	
7	ベアリング	高炭素クロム軸受鋼	
8	バックアップリング	ステンレス	
9	カバー	アルミニウム合金	白色
10	プレート	樹脂	白色
11	六角穴付ボルト	ステンレス	特殊ボルト
12	"O" リング	NBR	
13	ストップパッキン	NBR	
14	ボスケット	NBR	
15	"O" リング	NBR	
16	"O" リング	NBR	

CRB2BW15, 20, 30-※D



パーツリスト

番号	部品名	材質	備考
1	ボディ(A)	アルミニウム合金	白色
2	ボディ(B)	アルミニウム合金	白色
3	ベーンシャフト	樹脂	
4	ストップ	ステンレス	
5	ストップ	樹脂	
6	ストップ	ステンレス	
7	ベアリング	高炭素クロム軸受鋼	
8	バックアップリング	ステンレス	
9	六角穴付ボルト	ステンレス	特殊ボルト
10	"O" リング	NBR	
11	ストップパッキン	NBR	

3. 使用基本回路

3-1. 回路構成

エアフィルタ、レギュレータ、電磁弁、スピードコントローラを使用してロータリ・アクチュエータを作動させる場合の基本回路は、図1のようになります。

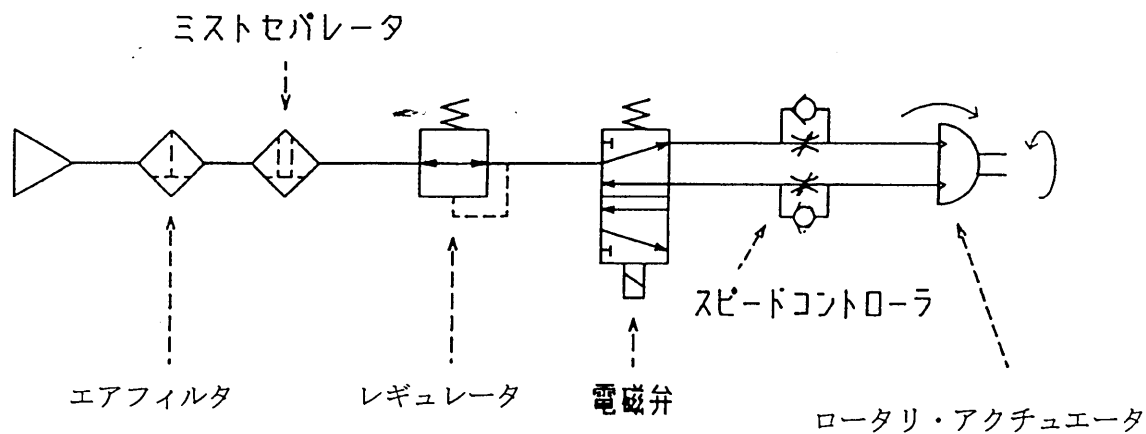


図1

3-2. 推奨機器

図1に示されています基本回路におきまして、使用する電磁弁、スピードコントローラ、チューブの推奨機器を表1に示します。

表1

形式	電磁弁 (CV値)	スピードコントローラ	チューブ
CRB2BW10 CRB2BW15	0.05	AS1※-M3 AS1※-M5	φ4 / φ2.5
CRB2BW20 CRB2BW30	0.1~0.2	注) ご使用の際は、必ずメータ アウト制御で使用して下さい。	

4.取付

⚠ 注意

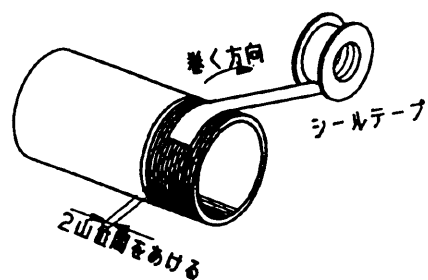
4-1. 使用空気について

- ① ロータリ・アクチュエータに給気される空気は、当社のエアフィルタシリーズにてろ過し、レギュレータ（ARシリーズ）によって所定の圧力に減圧された空気を使用してください。
- ② 無給油タイプですので、給油はしないでください。
給油すると、内部のグリスが洗い流され、所定の作動が得られなくなります。
- ③ ドレンを多量に含んだ圧縮空気は、ロータリ・アクチュエータの作動不良の原因となります。アフタクーラ、エアドライヤ、ドレンキャッチなど設置し、対策を施してください。

4-2. 配管について

⚠ 注意

- ① 配管前の処置
配管前に、管内をエアブロー（フラッシング）または洗浄を行い、管内の切粉、切削油、ゴミなどを除去してください。
- ② 配管や継手類をねじ込む場合に、配管ネジの切粉やシール材の混入がないよう注意してください。尚、シールテープを使用される時は、ネジ部を1.5～2山残して巻いてください。



4-3. 軸に加わる制限荷重

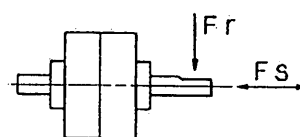


- ① 静的な荷重状態におきましては、表2に示される値まで荷重をかけることができますが、できるだけ軸に直接荷重がかかるような使い方は避けてください。

表2 許容軸荷重

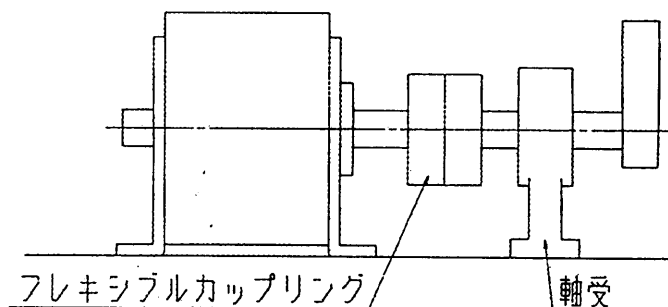
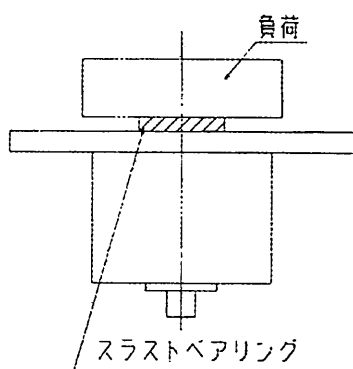
単位；N

機種サイズ	負荷方向	
	F_s	F_r
CRB2BW10	9.8	14.7
CRB2BW15	9.8	14.7
CRB2BW20	19.6	24.5
CRB2BW30	24.5	29.4



注) F_r の着力点は、一面取の長手寸法に対する中心位置になっています。

- ② 作動条件をより良くするために以下のような方法で軸に直接荷重がかからないよう、使用願います。



4-5. 軸継手の使用



図2に示されますように、ロータリ・アクチュエータの軸を延長して使用するような場合、相手側軸とロータリ・アクチュエータ軸の芯合わせが必要になります。芯がズレた状態で使用された場合、局部的に負荷率が高くなり、また軸に過大な曲げモーメントが加わります。

このような状態では、安定した動作が得られず、軸の破損が生じることもあります。
 このような場合フレキシブル継手（J I Sに示されているたわみ継手）を使用することが必要となります。

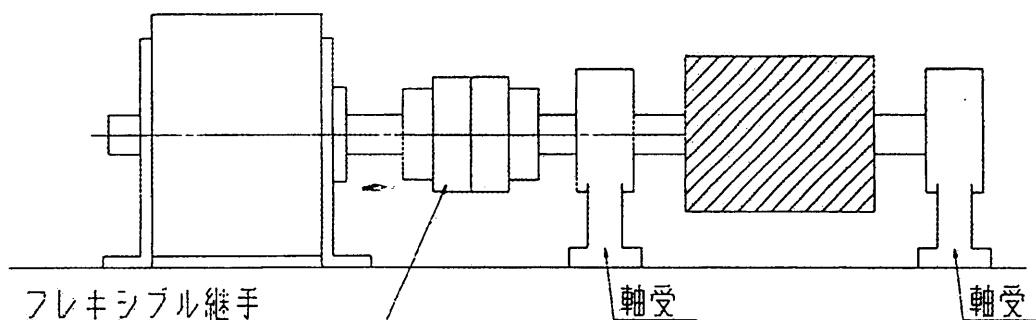


図 2

⚠ 警告

4-5. 使用環境について

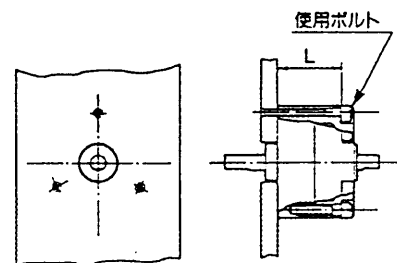
- ① 腐食の恐れのある雰囲気や場所では、使用しないでください。
 ロータリ・アクチュエータ各部の材質については、内部構造と各部品名称（P4）を参照ください。
- ② 塵埃の多い場所や、水滴・油滴の掛かる場所では、絶対に使用しないでください。

4-6. 本体をフランジとして使用する場合

本体のL寸法を下表に示します。

J I S規格品の六角穴付ボルトを使用した場合、アクチュエータの溝部にボルト頭部が収まりますので利用下さい。

機種サイズ	L寸法	使用ボルト
CRB2BW10	11.5	M2.5
CRB2BW15	16.0	M2.5
CRB2BW20	24.5	M3
CRB2BW30	34.5	M4



5. 揺動時間の設定

ロータリ・アクチュエータの発生トルクが小さい場合でも負荷の慣性力によってシャフト及び内部部品等の破損を招くことがあります。ロータリ・アクチュエータの使用に際しては負荷の慣性モーメント、運動エネルギーを計算して揺動時間を設定することが必要となります。

5-1. 慣性モーメント

- ① 慣性モーメントとは物体の回しにくさ、逆に言いますと回っている物体の止めにくさを示しています。

ロータリ・アクチュエータによって物体を動作させるとその物体には慣性力がかかります。次にストロークエンドでアクチュエータは停止しますが、物体には慣性力がついていしますので大きな衝撃力（運動エネルギー）がロータリ・アクチュエータに加わります。運動エネルギーは以下に示す式で算出されます。

$$E = 1/2 \times I \times \omega^2$$

E : 運動エネルギー (J)

I : 慣性モーメント ($\text{kg} \cdot \text{m}^2$)

ω : 角速度 (rad/s)

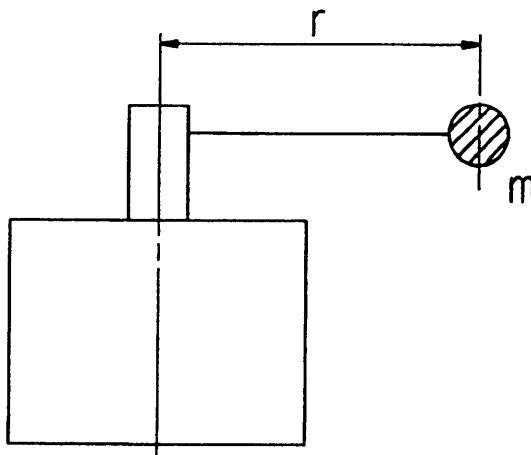
- ② ロータリ・アクチュエータに許容される運動エネルギーは制限がありますので、慣性モーメントを求めることにより揺動時間の限界値を求めることができます。以下に慣性モーメントの求め方について説明します。

慣性モーメントの基本式は

$$I = m \times r^2 \quad m : \text{質量} \quad (\text{kg})$$

で示されます。

これは回転軸から r の距離にある質量 M の回転軸に対する慣性モーメントとなります。



③ 各形状における慣性モーメントの算出式を示します。

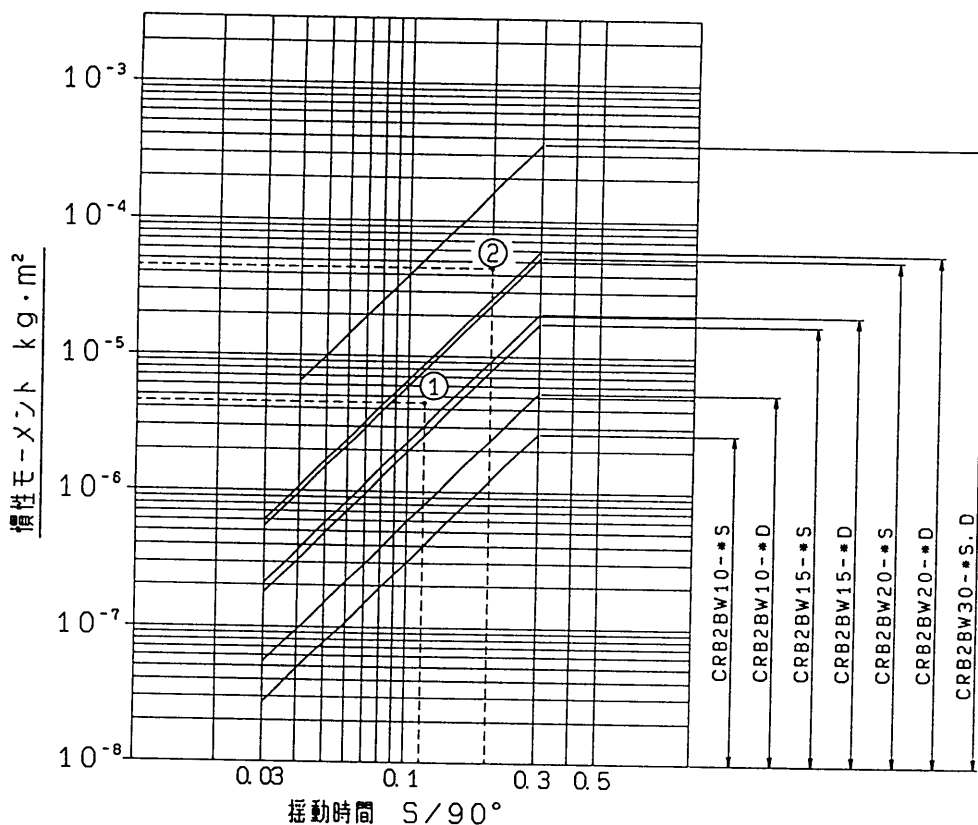
グラフ1の見方

例1：負荷の慣性モーメントが $3.5 \times 10^{-5} \text{ kg} \cdot \text{m}^2$ 、揺動時間 90° あたり
0.12秒でCRB2BW20を使用したい場合

縦軸 $3.5 \times 10^{-5} \text{ kg} \cdot \text{m}^2$ と横軸0.12秒の交点がエネルギー曲線の
下側に収まりますので使用することが可能です。(①参照)

例2：負荷の慣性モーメントが $4.5 \times 10^{-5} \text{ kg} \cdot \text{m}^2$ 、揺動時間 90° あたり
0.2秒でCRB2BW20を使用したい場合

縦軸 $4.5 \times 10^{-5} \text{ kg} \cdot \text{m}^2$ と横軸0.2秒の交点がエネルギー曲線の
上側に出てしまいますので使用することが出来ません。このような場合には、
上位機種を検討あるいは外部ストップ（緩衝機構）を利用し、負荷自体を止める
方法を検討願います。(②参照)



グラフ1

5-2. 運動エネルギー

CRB2シリーズの許容運動エネルギーを、表3に示します。

表3

単位 ; (J)

機種サイズ	ラバークッション使用の場合		ラバークッションを使用しない場合	
	シングルベーン	ダブルベーン	シングルベーン	ダブルベーン
CRB2BW10	—		0.00015	0.0003
CRB2BW15	0.001	0.0012	0.00025	0.00027
CRB2BW20	0.003	0.0033	0.0004	0.00048
CRB2BW30	0.02		0.015	

ロータリ・アクチュエータは加速途中で揺動端に達してしまうので終端加速度 ω は

$$\omega = 2 \theta / t$$

θ : 揺動角度 r a d

t : 揺動時間 s

で与えられます。

運動エネルギー E は

$$E = 1 / 2 \cdot I \cdot \omega^2$$

で与えられていますのでロータリ・アクチュエータの揺動時間 t は

$$t = \sqrt{\frac{2 \cdot I \cdot \theta^2}{E}}$$

となります。

E : 許容運動エネルギー (J)

I : 慣性モーメント (k g · m²)

θ : 揺動角度 (r a d) 180° = 3.14 r a d

等角加速度運動において t 秒後の角速度 ω 、および変位角 θ は次のようにして求められます。

$$\omega = \dot{\omega} \times t \quad \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot \quad (1)$$

$$\theta = \int \dot{\omega} t \, dt = 1/2 \dot{\omega} t^2 + C \quad \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot \quad (2)$$

C は積分定数

t = 0 における変位角 θ は $\theta = 0$ となるので積分定数 C = 0 となる。

$$\theta = 1/2 \dot{\omega} t^2 = 1/2 \omega t$$

ゆえに

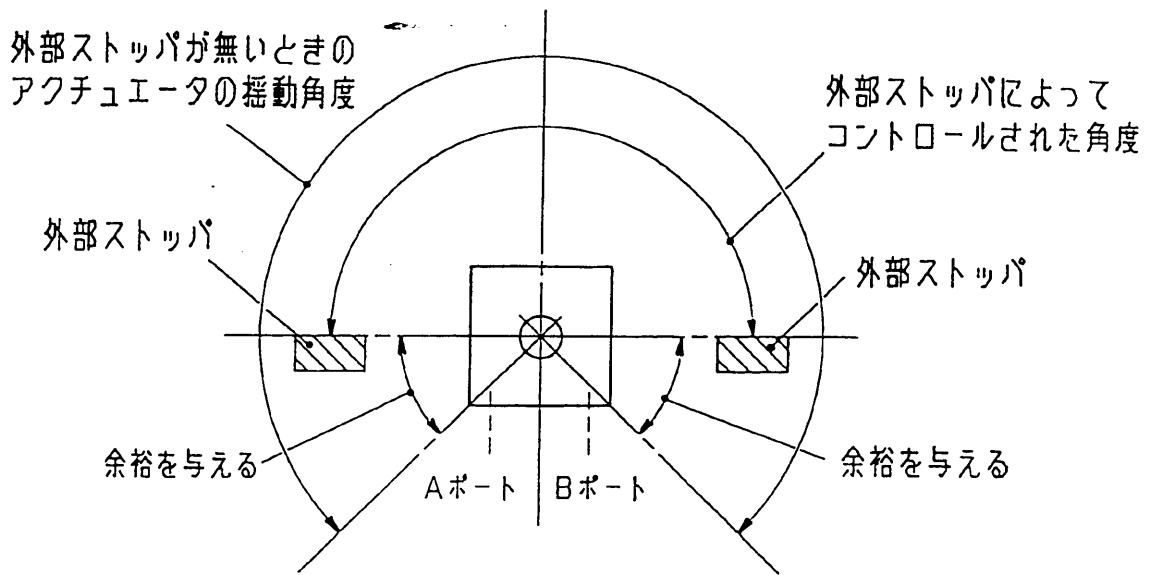
$$\omega = 2 \theta / t$$

5-3. 外部ストッパ

負荷の発生する運動エネルギーがアクチュエータの許容運動エネルギーを超える場合は、外部に緩衝機構を設けて慣性力を吸収しなければなりません。

以下に外部ストッパの正しい取付け方につきまして図で説明します。

※ロータリ・アクチュエータ自体では、構造上若干の角度誤差を含んでおりますので、位置精度を必要とする場合などにも外部ストッパを利用してください。

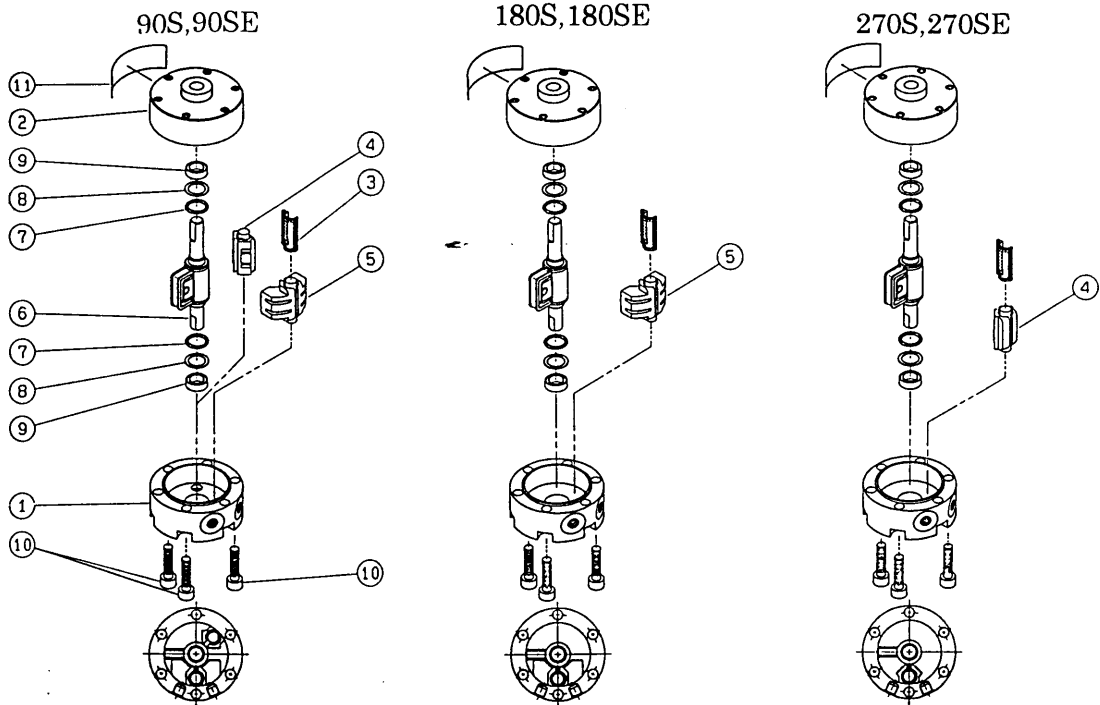


正しい位置		外部ストッパー
悪い位置		外部ストッパーが支点となり、負荷の慣性力はシャフトに曲げモーメントとして加わります。
悪い位置		負荷と反対側の軸に外部ストッパを付けると負荷の発生する慣性力は直接軸に加わることとなります

ショックアブソーバなどの緩衝機能を有するときおよび負荷が許容エネルギー以内であれば、片軸を利用してもし支えありません。

6. 保守, 点検

シングルベーンタイプ



- 供給空気を清浄化するために、必ずエアフィルタを取り付けてください。
- アクチュエータは、故障の場合を除き分解しないでください。やむを得ず分解するときは、ゴミや異物の混入を避けて以下の順序に従ってください。(作動不良の場合は、殆どが内部漏れの増加によるものですから、スピードコントローラの再調査が必要となります。安定な速度調整範囲(1ページ目の速度調整可能範囲参照)で使用することをお奨めします。)

CRB 2BW※-90S, 90SEの場合

[分解]

- ①六角穴付ボルト⑩を取り外します。
- ②ボディ(A)①, ボディ(B)②いずれか一方を固定し、ベーンシャフト⑥を押し出し、ボディ(A)(B)を分離する。
- ③ベーンシャフト⑥, ストップ④, ⑤を取り出す。

[再組立]

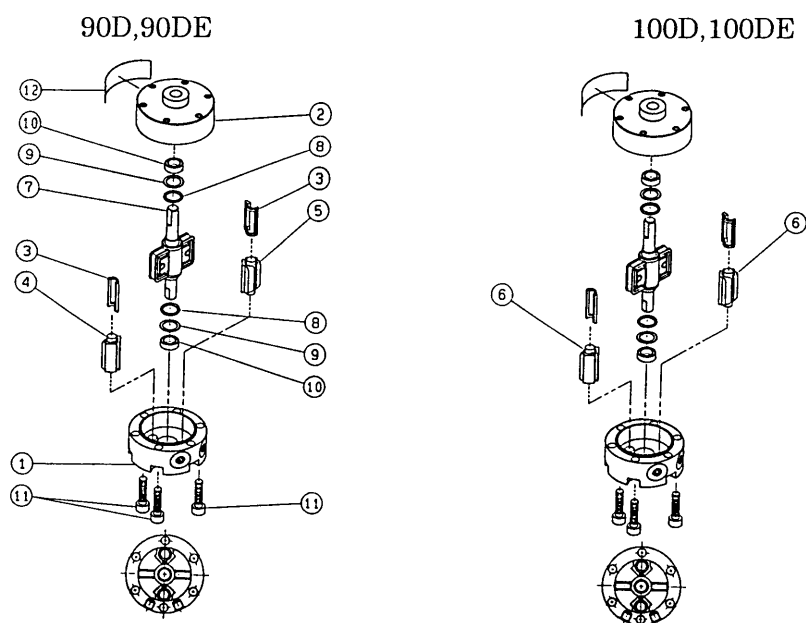
- ①ボディ(B)②にベーンシャフト⑥を組み込む。
- ②ストップ⑤にストップパッキン③を組み込む。
- ③ストップ④, ⑤をボディ(B)に組み込む。(注)ストップの位置に注意
- ④ボディ(A)①をベーンシャフト⑥に挿入する。

⑤ボディ (A) ①ボディ (B) ②を六角穴付ボルト⑩で締め付ける。

表4. 締め付けトルク

機種サイズ	締め付けトルク (N・m)
CRB2BW10,CRB2BW15	0.8～1.2
CRB2BW20	2.0～3.4
CRB2BW30	4.0～6.0

ダブルベーンタイプ (CRB2BW15, 20, 30の場合)



CRB2BW※—90D, 90DEの場合

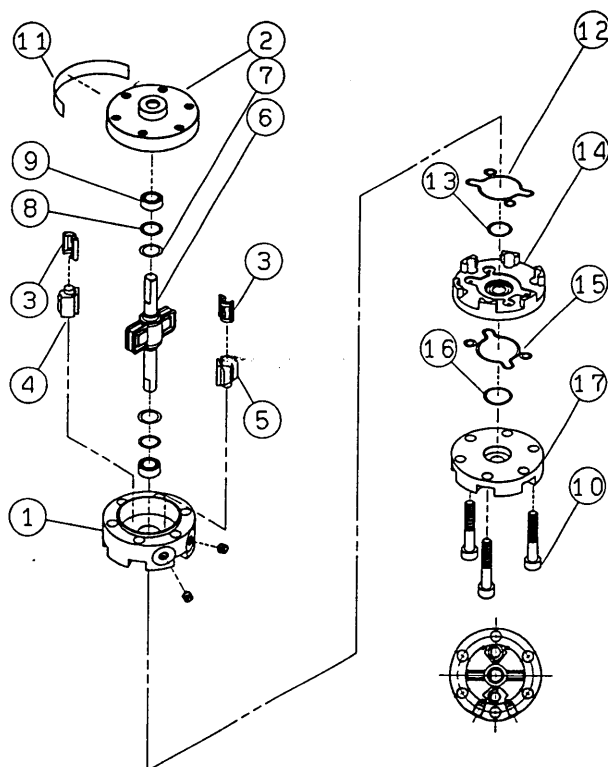
[分解]

- ① 六角穴付ボルト⑩を取り外します。
- ② ボディ (A) ①, ボディ (B) ②いずれか一方を固定し、ベーンシャフト⑦を押し出し、ボディ (A) (B) を分離する。
- ③ ベーンシャフト⑦, ストップ④, ⑤を取り出す。

[再組立]

- ①ボディ (B) ②にベーンシャフト⑥を組み込む。
- ②ストップ④, ⑤にストップパッキン③を組み込む。
- ③ストップ④, ⑤をボディ (B) に組み込む。(注) ストップの位置に注意
- ④ ボディ (A) ①をベーンシャフト⑥に挿入する。
- ⑤ボディ (A) ①ボディ (B) ②を六角穴付ボルト⑩で締め付ける。
締め付けトルクは表4に示します。

ダブルベーンタイプ (CRB2BW10の場合)



CRB2BW10—※D, DEの場合

[分解]

- ① 六角穴付ボルト⑩を取り外します。
- ② ボディ (A) ①, ボディ (B) ②いずれか一方を固定し、ベーンシャフト⑥を押し出し、ボディ (A) (B) を分離する。
- ③ ベーンシャフト⑥, ストップ④, ⑤を取り出す。

[再組立]

- ①ボディ (B) ②にベーンシャフト⑥を組み込む。
 - ②ストップ④, ⑤にストップパッキン③を組み込む。
 - ③ストップ④, ⑤をボディ (B) に組み込む。(注) ストップの位置に注意
 - ④ ボディ (A) ①をベーンシャフト⑥に挿入する。
 - ⑤ 『プレートA 's s y』プレート (樹脂) ⑭に⑬⑯ “O” リング, ⑫⑮特殊パッキンを装着する (“O” リング及びパッキンの装着位置に注意)
 - ⑥ 『カバーA 's s y』カバー⑰を⑤の作業にて “O” リング及び特殊パッキンを装着したプレートに装着
 - ⑦ボディ (A) ①, ボディ (B), ②, カバーA 's s yを六角穴付ボルト⑩で締め付ける。
- 締め付けトルクは表4に示します。

[注意]

- ①一度分解した製品は、保証対象外になりますので分解の際は、内部構造を十分把握した上で行ってください。
- ②再組立の際、パッキン類を損傷しないよう注意してください。
また、全てのパッキン類及びボディ、ベーンシャフト摺動面には、必ずグリスアップを行って下さい。
- ③ボディ (A)、ボディ (B)、ベーンシャフトの摺動面など絶対に傷つけぬよう注意してください。
- ④ベーンシャフトのゴムは、焼き付け接着していますので、取り外しできません。

7. 故障と対策

故障状態	原因	対策
作動しない スピードコントローラの調整を行い、原因が特に揺動速度調整に影響していないかどうか確認する	揺動速度調整において、作動上安定な速度調整範囲を満足していない	カタログ記載の作動上の安定な速度調整範囲内で使用する。
	異物、異質油などによる内部パッキンの損傷による内部漏れ増加	ベーンシャフト、ストッパパッキン等を交換 (通常、製品の交換が必要)
	使用温度範囲を超えて使用による内部パッキンシール不良または内部抵抗の上昇。 (凍結含む)	使用温度範囲内で使用する。 (パッキンシール不良では、ベーンシャフト、ストッパパッキン等を交換する場合がある)
	周辺機器の不具合 a, スピードコントローラの調整不具合 b, 電磁弁の作動不良 c, エアフィルタ目づまりによるエア供給不足 d, 減圧弁不具合による圧力低下	周辺機器について対策品を使用する。 (回路上の問題も含む)
シャフト折れ	負荷のエネルギーが大きい a, 負荷の質量が大きい b, 作動速度が速い c, 回転半径が大きい	シャフトの交換 a, 許容エネルギー値以内で使用する。 b, 衝撃エネルギーを吸収するクッション装置、外部ストッパの取付を適切に行う。
	負荷のエネルギー以外の外力が加わっている。	シャフト交換 過大な外力を避ける
	芯ずれによる偏荷重	シャフトの交換
揺動角度不良	回転軸の連結部、内部ストッパの破損	連結部の交換または製品の交換

軸受損傷	過負荷 (スラスト・ラジアル方向荷重 が大きい)	ベアリングの交換：ラジアル スラスト荷重を許容値以内で使 用する。
	芯ずれによる偏荷重	ベアリング交換：芯ずれをなく す
	振動が大きい	ベアリング交換：振動を緩和す る
外部漏れ	軸受の損傷、シャフトの曲がり による“O”リングシール不良	軸受、シャフトの交換 外力を緩和する
	異物、異質油による“O”リン グの損傷	“O”リングの交換 異物、異質油の混入を防止する
内部漏れ (耐久上の内部漏 れ増加は除きま す)	異物、異質油によるパッキンの 損傷	ベーンシャフト、ストッパパッ キンの交換 (通常、製品の交換が必要) 異物、異質油の混入を防止する
	使用温度範囲を超えての使用に よりパッキンシール不良	ベーンシャフト、ストッパパッ キンの交換 (特に高温使用の場合には、製 品の交換が必要) 使用温度範囲内で使用する

故障と対策一覧表に関する注意事項

1. 寿命に関しては、原因の項目から除いています。
2. 原因が、一覧表以外（寿命を除く）の要因の場合、製品の分解調査などを必要とする
ことがありますので、弊社まで問い合わせ願います。